

青葉区立町地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 2 月 17 日掲載)

これまで公務員宿舎にお住まいになっていた方々が、数年前に新築された川内の公務員宿舎へ転居後、空室となっていた旧宿舎に公営仮設住宅約 120 世帯の方々が転入されています。鉄筋コンクリート5階建てで、エレベーターはありません。この転入（入居）に際しては、仙台市青葉区まちづくり推進課とパーソナルサポートセンターの方々の多大なご尽力をいただきました。転入された方々は、慣れない地域での新しい生活に戸惑うことばかりだったと思いますが、少しずつ地域になじんでいただき、ゆっくりと暮らしの再生へ向けのお力添えをいただいております。

自治会もでき、地区担当の民生委員はもちろん、近隣の委員もサロン活動や季節折々のイベントに参加しながら親交を深め、ご家庭を訪問できるようになりました。

幸いバス停が近くにあるので、買いものをはじめとした外出には比較的便利で、お元気な方がよく外出されている様子は何よりと思います。

また範囲を広げ、木町地区・八幡地区・立町地区エリアにおいて、仙台市社会福祉協議会の支え合いセンターなどが行なっている毎月のサロンもそれぞれに趣向をこらしたカリキュラム構成で、川内の公営仮設住宅からも足を運ばれており、民生委員も一緒に三地区合同で和気あいあいの雰囲気楽しい時を過ごしています。最近はその地域の方々も参加されているようです。

みなし仮設住宅に入居されている方については、民児協の定例会において市社協支えあいセンター職員から毎月の状況報告をいただいております。相談内容は、当然のことながら住宅問題が大多数で、全般的には大きな内容の変化はみられません。今でも訪問を拒否されている方もいるとのことで、孤立化していくのではないかととても心配しています。

他にもそれぞれの町内に転入されていらっしゃるようですが、近所の昔ながらの商店が店を閉じてしまい、みなし仮設住宅入居者など転入されてきた方々の生活の様子等の情報を得るのが難しいのが現実です。そのようななかであって、理・美容室で転入されてきた方々の様子を耳にするなかで、自らの事を話して地域にすっかり慣じんだ生活を送られている方もいるとのことで、少しは安心もしています。